

話も

教授の大胆なスピーチ

## 中国共産党・拝金主義者を標的に

—知識人の健在ぶり？ 改革派とつながり？—

ジャーナリスト 丹藤 佳紀

9月に新学期が始まる中国ではいまが学期末で、卒業式のシーズン。最近、北京にある中国政法大学法科大学院で院生の卒業式・懇親会が行われた。そこで副院長で教授の何兵氏がユーモアと諷刺に満ちた「はなむけの言葉」を卒業生に贈ったのだが、その模様を撮影した動画が中国のYouTubeともいべきサイト「優酷」で大々的に伝えられ、大きな話題になった。

中国政法大学は、法曹分野に人材を輩出している名門校であるが、何兵教授のスピーチはこんな風に始まる。

「勝手に誰かを代表してはいけないこの時代に、人を代表するつもりはありません。自分自身を代表してみなさんにホントのところをお話しします」

「代表する」を受け身にした

「代表される」(被代表)は、

2009年1位になったネット流行語で、「人民を代表」だの「大衆を代表」だの勝手に代弁者をでっち上げる「ヤラセの風潮」を諷刺した言い回しである。

何教授は次いで「今は大変で、たらめな時代です」と語り、「革命歌を歌うよう奨励するが革命は奨励せず、映画『建党偉業』を見るよう奨励するが、新しい党をつくることは奨励しないといったことです」と言い切った。

中国で現在進行中の政策を皮肉ったこの発言に卒業生は大爆笑し、やんやの拍手を贈った。

ここで例にあげられた革命歌とは、薄熙来中共重慶市委書記が来年の党大会での党中央政治局常務委員会入りをめざして「唱紅歌」のキャンペーンを大々的に展開しているのを指す。さ

らに中国共産党創立90周年の記念作品で、党中央が推奨の映画『建党偉業』についてもその「唯我独尊」ぶりを皮肉る素材にしたのである。

もう一カ所、このスピーチのヤマ場は、「北京のある大学の教師」が学生に「きみたちは卒業して10年で4000万元(約5億円)かせげなかったら私に会いに来るな」と語ったと紹介したくだり。「そんな話は、私はしません」と何教授は語り「ただ、10年後にみなさんのうちの誰かが善良な市民を陥れるようなことがあったら、ウチの門をくぐらせません」と宣言して、学生から大爆笑と拍手を浴びた。

「4000万元」の話は北京師範大学のD教授が「大金持ちになるよう」強調して学生にしたもので、ネットで伝えられると賛否両論のマトになった。

このスピーチについて「公開の場でこんなことをぶち上げて、何兵教授は大丈夫なの？」と懸念、心配する声強い。私も実は気がかりだった。

現に『毎日新聞』(7月1日)はこの卒業式の動画が中国の主要サイトで見られなくなったと伝えている。しかし、この報道は早とちりだったようで、7月8日現在、「土豆網」などで見ることができている。

ここまでの過程で、私が上記の懸念を中国の友人に伝えたところ、ある人から「動画が削除されないのは、党指導部の改革派から援護されているからではないか？」との示唆があった。

なるほど、薄熙来書記の「唱紅打黒」(革命を讃え、やくざを叩く)キャンペーンについては、最上層部でも賛否の意見は割れていると言われている。

中共創立90周年のお祝いが済み、これからは来年の第18回党大会を念頭においた政治的駆け引きが本格化する。胡総書記らから「唱紅」キャンペーンⅡ「保守化」という流れを制御しようという動きが出てもおかしくない状況になっている。

(筆者は協力会員・ブログ「リベラル21」から一部省略して転載)